



させぼ夢大学

発行 公益社団法人 させぼ夢大学
編集委員会
事務局 / 〒857-0863
長崎県佐世保市三浦町4-30・松蔵ビル3F
TEL.0956-25-9555 FAX.0956-25-9545
http://www.yumedai.com/
E-mail:sasebo_yumedai@yahoo.co.jp

次回ご案内 25-9556

夢のつづき

させぼ夢大学会報

No.258 2017・5

平成29年度
第2回

2017年**5月18日(木)**
アルカスSASEBO 大ホール

開 場 午後5:30
夢のひろば 午後6:00
講 演 午後6:30

今回は「さぁ～皆さん!」と、独特な声と語り口でお馴染みの高田 明さんの登場です。

高田さんは大学を卒業後、京都の機械製造メーカーに就職し、海外駐在を経験。78年に平戸市で父親が経営するカメラ店に入社。その後、分離独立し86年に佐世保市三川内町で「株式会社たかた」を設立しました。当時珍しかったカメラフィルムの即日現像を始め、時代の波に乗ってビデオカメラ、カラオケセットなどを販売。90年に、地元放送局からの声掛けでラジオショッピングを始めたところ、1回の放送でコンパクトカメラが50台売れたことで通信販売の可能性を感じ、全国へとそのネットワークを広げていきました。また、94年にテレビショッピングに参入した後は、自社のテレビスタジオを完成させ、



今もジャパネットたかたは佐世保から全国へ情報を発信し続けています。

2015年には社長を退任、16年には番組の出演からも卒業しましたが、2ヶ月に一回程度、全国を旅して良いものを紹介する「おさんぼジャパネット」には出演しています。また、九十九島パールシーリゾートのCMにも出演されていたことは、佐世保の皆さんはご存知だと思います。今年発売された著書「伝えることから始めよう」では「今を一生懸命に生きていけば道は拓ける」「『伝える』と『伝わる』は違う」とご自身の経験を踏まえて熱く語っています。

今回は、68歳の今も夢を持ち続けているという高田さんから、魅力いっぱいのお話が聞けそうです。ご期待ください。

講 師 ● 株式会社A and Live 代表取締役
(株式会社ジャパネットたかた 創業者) ^{たかた} 高田 ^{あきら} 明氏

テーマ ● 夢持ち続け日々精進



次回のご案内

と き / **6月15日(木)**

講 師 / TVキャスター ^{くさの} 草野 ^{ひとし} 仁氏

テーマ / いつもチャレンジ精神で

1944年旧満州新京で生まれる。長崎西高等学校を経て1967年東京大学文学部社会学部卒業後、NHK入社。主にスポーツキャスターとして、1976年モントリオール・1980年レークプラシッド五輪をはじめ、様々なスポーツ実況中継を担当。又、「ニュースセンター9時」「ニュースワイド」キャスターも務めた。1985年NHK退社後、フリーのTVキャスターとして活躍中。TV「世界ふしぎ発見!」「主治医が見つかる診療所」等に出演。「人生ふしぎ発見」「生きてるからこそ」など著書多数。

高田 明 氏のプロフィール

1948年平戸市生まれ。1971年大学卒業後、機械製造メーカー(株)阪村機械製作所へ入社し通訳として海外駐在を経験。1974年父親が経営するカメラ店に入社。1986年分離独立し(株)たかた設立。1990年のラジオショッピングを機に全国へネットワークを広げ、のちTV、チラシ・カタログなどの紙媒体、インターネットや携帯サイト等での通販事業を展開。1999年(株)ジャパネットたかたに社名変更。2015年同社代表取締役を退任、(株)A and Live設立。



夢のひろば

日時 / 5月18日 午後6時～6時20分
演目 / バンド演奏 (Pops & Jazz)
出演 / R.I.Z feat Takuto.Y
(リズ フィーチャリング 拓音山近)

Rima : ボーカル
Chinatsu : フルート
前田 和隆 : ギター
小川 貴之 : キーボード
佐々木久和 : パーカッション
福田 将之 : ベース
山近 拓音 : ドラム
(今や全国に名を馳せる天才ドラマー)

出演者紹介

昨年の「佐世保ジャズ」でトップバッターを飾ったR.I.Z. 歌手やモデルとして大人気のRimaが佐世保に縁の深いジャズ界の大御所マリンさんのレパートリーを熱唱します。ドラムには今年北高を卒業、秋には渡米し音楽留学を控えた佐世保の宝である山近拓音君が、圧巻のパフォーマンスを披露。

曲 目(すべてマリンさんのレパートリーです)

- Hot Stuff
- Last Dance
- Help Me Make It Through The Night
- It's Magic

「知的興奮」を求め 自分づくりに挑戦!!

未来への希望と平和への願い
佐世保市大和町 梶山 カズ子
四半世紀を越えた「させば夢大学」が半世紀への継続を目指して、第二十六回の開講式が行われた。エレクトーン演奏が流れる舞台のスクリーンには、春たけなわの菜の花と、躍動するミツバチの姿が写し出され、未来への希望と平和への願いが感じられた。花粉だんごをつけているミツバチがとてモ動勉家であることも印象的であった。

田中角栄氏の人柄や、政界の名だたる方々の金言などとても興味深いものであった。又、総理大臣の三つの目標は、在籍日数の拡大、解散総選挙の実行、実績を残す、であるということも耳新しいことであった。話の中で、現在の一強党政権と野党とのあり方の大切さ、そしてコメントーターとしての厳しい批判の目を向ける必要性など説かれ、大いに納得できた。

講演を聴かれた感想をお待ちしています!

締め切りは講演日の1週間後(必着)
宛先は、させば夢大学事務局まで

あれから七十余年

佐世保市大宮町 吉次 公子

桜変奏曲の余韻の中、入学式が始まりました。幾度出席しても今が青春、本当に年齢なんて関係なしに今年も何を学び、考えて成長できるかと楽しくなりました。

第一回、政治アナリスト伊藤惇夫氏による「今後の政治をどう読むか」。笑いを交えての講義を大変面白く拝聴しました。

隣国の動静はもとより、報道される国際情勢の緊迫感、これからの日本の政治経済がどう影響されるのか。かつて第二次世界大戦も大きな世界の渦の中で三国同盟が結ばれ、自国の力を過信した軍国主義日本が巻き込まれて敗戦の憂き目に遭いました。あれから平和になつて七十余年。

そして今、国内では大阪の小学校国有地問題、相次ぐ大臣の失言、取り消し、謝罪と、野党の力不足も感じます。私達自身も無関心ではないのですが、日々の生活に追われて、政治離れをしている様な気がします。お話を聞きながら、この世界情勢の中でこれからの日本が、どのように平和を維持できるのか、しっかりと見守りたいと思えました。

今年もいろいろなる事を一杯学びたいと思います。よろしくお願い致します。

長期的ビジョン

佐世保市梅田町 森 洋子

現政権が戦後3番目の長期安定政権になるうとしている今、日本国の長期的ビジョンが必要。

国を会社に例えるなら、日本国株式会社(仮)の経営方針をはつきりと思いつかる事は難しい。アベノミクスという中、長期経営計画の評価をする、日常生活で、給料が上がった、生活に余裕ができた、などという実感を持つ事からは程遠い。一億総活躍社会という方針は掲げられたものの、女性が子育てとフルタイムの仕事を両立する環境は十分に整っておらず、もうすぐやって来る自分の

トランプ大統領登場で世界はどうなるの?



日本は、佐世保は大丈夫ですか?!

老後も不安でいっぱいである。伊藤氏の言われたように、国民は次々と掲げられている現政権の看板に期待をもたされ続けているが、実際の成果はどれだけあったのだろうかと改めて考えさせられた。

国会討論の内容よりもワイドショーのネタになるようなスキャンダルばかりが日々のマスコミに取り上げられる。マスコミや野党のチェック機能は正常に機能しているのか。伊藤氏の解説で外交政策と、政権をチェックする機能がいかに重要かという事も再認識できた。諸外国の政情が今まで以上に日本にも影響を与えている。自分を見失わないで外国と渡り合っていくためにはならない。成長には良きライバルと切磋琢磨していく事も必要だ。私は政治には無頓着な一介の会社員であるが、今後の政治の向かうべきところも、会社や個人単位で考える事と共通するところが多いと感じた。



北島悠記さん、畑野美佳さんによるエレクトーン演奏



ソプラノ 鶴田智子さん



させぼの歴史は謎がいっぱい

【二歩】

鉄砲伝来は種子島ではなく平戸。そして飯盛城の戦いで使われた。

小川照郷

に至る。頂きには石祠があり、戦さの神である將軍地蔵が祀られている。この山にあった飯盛城は、宗家松浦氏の宗金親が築いた城だ。また、『印山記』に、「此の飯盛城と申は高き事雲にそびえ、後は古木陰をかさね東は岩石巖は大河西は蒼海満々として、その外堀を掘り水をたたえ香椎川西方寺口まで要害きびしく固ければ容易に責むべき手だてもなく」と記される。

これを素直に読めば、飯盛神社の西のかつて浄水場があった場所が城

飯盛城の宗家松浦は一度、平戸松浦から攻められている。二度目は天文十年(1542)から始まった戦いだ。興信から隆信の代になって、平戸は戦国大名として半島統一の行動を起こした。このときは鷹島を割譲して収まっている。

二度目は永禄六年(1563)、このとき宗家を家臣化し、隆信の子の九郎を跡取りに送り込んだ。

この二回目の天文十二年の正月、飯盛城攻めに鉄砲が使われたのだ。その数年前に、王直は松浦隆信から平

社会科の授業で『鉄砲伝来』を学んだ記憶がある。天文十二年(1543)にポルトガル船が種子島に来て、鉄砲を日本に初めて伝えたというもの。「以後、予算を食う」の口合わせて覚えていた。中国商人の王直の船が流れ着き、乗っていたポルトガル人が鉄砲を種子島領主に売った。それが教科書に書かれた『鉄砲伝来』である。

平戸藩の歴史書である『印山記』に、面白いことが記されている。

『天文十二年を迎へぬ、同年正月隆信再び飯盛城を攻む、彼我死傷多し、此の時平戸勢にては珍らしき武器鐵砲を備へ居たれば……』

これが事実とすれば、種子島の前に、相浦の飯盛城の戦いで鉄砲が使われていることになる。今回はそのことを書いてみたい。

相浦に登る飯盛岳は「愛宕山」とも「相浦富士」とも呼ばれる。円錐形をした山である。山裾には飯盛神社があつて、その脇の旧浄水場の上のところに登山口がある。つづら折りになった急峻な登山道が続き、それを喘ぎながら進むと、30分ほどで山頂



跡となる。

冬枯れの晴れた日、登山道を離れてスカスカに透けた森に分け入った。急な山肌を這うように登って行く。古い山道や遺跡がないかと探すのだが、山頂の近くで古い石積みを見つけた。それに加え、山頂の祠の背後に平場があつて、削った痕跡があつた。ここが飯盛城の跡跡と思われる。居館は山裾にあるのだけど、いざ戦いといふときは山城に陣つて闘うのだ。

戸城下に館を賜つている。このときに鉄砲を伝えたと思われる。事実、飯盛城の裾にある門前遺跡の発掘調査で、火縄銃の弾丸の坩堝が出土している。

すなわち、鉄砲伝来は種子島ではなく平戸だつた。そして鉄砲が最初に使われた戦いは、相浦の飯盛城で、天文十二年正月のこと。そう考えると、難しいと敬遠しがちな歴史が、俄に身近なものと感じるのではないか。

事務局だより

★伊藤惇夫さん、ありがとうございました

エレクトーンと初のソプラノ独唱で始まった恒例の開講式に続いて登場された伊藤さん。有名政治家の格言、総理の三つの望み、現政権の特色等をはじめとして、普段は窺い知れない政治の様々な場面を、笑いを交えわかりやすく講演されました。

★館内の空調について

アルカスSASEBO大ホールは空調は、部分的な調整ができません。座席の位置によっては暑く、又は寒く感じる場合があります。皆さん十分な準備をされた上でご出席ください。

★優先席について

1階席の最後尾列に、車イス等の方専用の席をご用意しています。優先席は限られていますので、ご希望の方はできるだけ早めにご来場頂きますようお願い致します。

★マナーについて

スマホや携帯電話等の電子機器類の電源は、確実にお切りください。

★「九十九詩人」を聴くことができます

当社ホームページ(<http://www.yumedai.com/>)のトップページにある『再生』ボタンを押してご利用頂けます。

スマートフォンの上で、左記の「QRコード」をご利用の上、お楽しみください。

なお通信料は、ご利用者負担となりますのでご注意ください。

